

裁判員等経験者と法曹三者との 意見交換会

令和6年3月22日
さいたま地方裁判所

15～20歳程度の若い世代の方を招いて、
裁判員等（裁判員及び補充裁判員）経験者と法曹三者（裁判官、検察官及び弁護士）との意見交換会を実施しました。
意見交換や質疑応答の内容をご紹介します。



実際の裁判員裁判について

◇裁判員等経験者から

—裁判員等にも選ばれるまで、裁判員等をやりたいと思って
いましたか？

選ばれた際にどう思いましたか？（検察官）

・通知が来た際は驚きましたが、興味があったため、
比較的前向きな感情を持っていました。

・社会経験として、良い勉強になると思いました。

—評議において、発言には勇気が要りましたか？（弁護士）

・最初は緊張しましたが、評議の回数を重ねると議論が
白熱し、活発に意見を出すことができたと思います。

・発言をまとめることが得意ではないと感じていて、

最初は言い方に気を付けて発言をしていたので、
少し勇気が要ったと思います。

—参加して変わったことはありますか？（裁判官）

・ニュースを見て、これまでの自分と比べて意見が
変わったと思うことがありました。

・参加するまでは、ニュースを見て判決が軽いと思って
いましたが、「疑わしきは被告人の利益に」ということで
判決が考えられていることが分かりました。
ネットなどでは、様々な噂や情報が出回ることが
ありますが、法廷内では検察官が出した証拠のみで
判断するため、このような判決になると考えるように
なりました。

・想像しているよりも、裁判官がフラットに考えている
ことを知りました。

模擬裁判・模擬評議についての感想

◇裁判員等経験者から

- ・実際の裁判での評議と今回の模擬評議で話し易さに差はなかったです。
- ・今回の模擬裁判は、自身が経験した実際の裁判での評議と比べて若い世代の方が多く、年代の違いにより事実の捉え方や考え方が違うなと感じました。
- ・実際の裁判で担当した事件は複雑で、事件当時の状況をイメージしづらいものでした。評議では、事件当時の状況を検討する中で、二転三転意見が変わるような流れで進んでいきました。今回も、事件当時の状況を検討して議論をしていて、まさに実際の評議と同じ環境だと思いました。

◇参加者から

- ・評議は、もっと厳かな印象を持っていましたが、思ったより自分の意見を出しやすかったです。
- ・評議では、変なことを言っていないかと緊張しました。実際に選ばれたらこんな感じになるのかと現実味が増し、良い経験になりました。

- ・結論を出す前に、要点を一つずつ確認していくところがプロフェッショナルだと感じました。
- ・被告人の行動について客観的に考えることの難しさを感じました。
- ・今回の模擬評議は、同世代が集まるのもっと早く結論が出るイメージでいました。要点を押さえて話すことで、それぞれの意見をしっかり出すことができたと思いました。
- ・人と人が話し合いながら結論を出していると感じることができました。一方的に決めつけるのではなく、双方の意見を考えて結論を出していて、良いなと思いました。

◇弁護士から

- ・普段見ることのできない評議を見ることができ、有益でした。

◇裁判官から

- ・今回はこれから裁判員候補者になる世代の方が参加していますが、普段の裁判員裁判と変わらない感覚で、密度の濃い評議ができました。

質疑応答など

◇裁判長から

—裁判員裁判に参加する際、髪色が支障となることはありますか？(裁判員等経験者)

- ・裁判員裁判に参加する服装や髪色については、普段通りでご参加いただければと思います。服装や髪色に指定はありません。

*その他、刑事裁判、司法試験や法曹の仕事について質疑応答が行われました。

裁判員等経験者からのメッセージ

- ・やりがいがあるため、やってみたら悪くない経験になると思います。
- ・自分の意見とまではいかななくても、疑問を投げかけることで議論が進んだりするので、臆せず発言して良いと思います。

ご参加いただいた皆様
ありがとうございました!



開催内容

◇模擬裁判

裁判官・検察官・弁護士等が模擬裁判を実演し、裁判員等経験者・参加者にはその様子を傍聴していただきました。

◇模擬評議

裁判官・裁判員等経験者・参加者で、模擬裁判での「争点」を題材に、模擬評議を行いました。

◇意見交換・質疑応答

- ①参加者・法曹三者との間で模擬裁判・模擬評議を踏まえた意見交換、質疑応答を行いました。
- ②裁判員等経験者に実際の裁判員等の経験の感想を話していただきました。

◇法廷見学

法廷内の見学や、法服用体験を行いました。